

## 全日本吹奏楽コンクール小編成の部開催に向けて ～規定と現状から考える～

音楽班:岩本春香、保田月音

### 要約

現在日本で行われている全日本吹奏楽コンクールでは、A部門と呼ばれる大編成向けの大会しか開催されていない。少人数でも出場できる部門を設置できれば、日本の吹奏楽がより発展するのではないかと考えた。そこで、各地方のコンクールの開催状況や規定などを調査し、「全日本吹奏楽コンクール小編成の部」を開催するには何が必要かを考えた。

調査の結果、全国大会への予選となる地方大会に小編成の部が設置されていないこと、少人数バンド向けの演奏曲が少ないことなどが課題として挙げられた。よって、全国大会への代表を選出できる地方大会を整備し、少人数でも演奏効果の高い楽曲を普及させることが必要だと考えた。また、少人数バンドに対応できる知識や経験のある指導者の存在も強く求められると考えた。

### 1. はじめに

中学校・高校の部活で吹奏楽コンクールに出場し上位大会を目指す中で、小編成(本研究では約25人以下とする)の部は各地方大会までしかないことを知った。地方大会では、上位層が毎年ほぼ同じ団体に埋め尽くされている状況も度々見受けられる。そこで、少人数で活動をしているバンドが出場できる今より大きな規模の大会があれば、吹奏楽がより発展するのではないかと考えた。

本研究では、なぜ全日本吹奏楽コンクールで小編成の部が開催されていないのかを調べ、どうすれば開催できるのかを考える。

### 2. 調査・結果・考察

各吹奏楽連盟のWebサイトなどで、調査する項目に関する情報を集め考察した。

#### 《調査1》

なぜ全国大会に小編成の部が設置されていないのか

#### 《結果・考察1》

様々な原因が考えられるが、「A部門に人数の下限がないこと」が大きな理由となっていることがわかった。

A部門は出場人数の上限が50人～60人と決められているが、下限はない。よって、少人数バンドでも参加することができる。しかし、上限人数と等しいまたはそれに近い人数で出場する団体が多いことや、少人数では指定された課題曲の演奏が難しいといった理由から、小編成バンドがA部門で勝ち上がるのは極めて難しいと考えられる。したがって、A部門よりも上限人数が少ない新たな部門の設置は吹奏楽の発展において必要であると結論づけた。

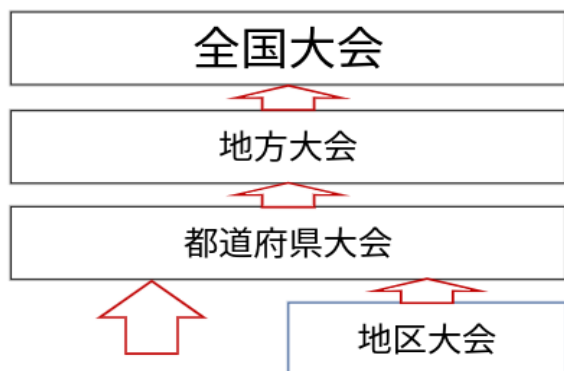
#### 《調査2》

現在の吹奏楽コンクールはどのような仕組みで行われているのか

#### 《結果・考察2》

現在全国大会が行われているA部門では、各都道府県代表が11の地方支部大会(北海道・東北・東関東・西関東・東京・北陸・東海・関西・中国・四国・九州)へ進み、更に支部代表が全国大会に出場する。(下図参照)

同様に、各都道府県大会及び支部大会で小編成の部を設置できれば、小編成の部全国大会も開催できるのではないかと考えた。



【全国大会への代表選出の流れ】  
※地区大会を実施していない都道府県もある

### 3. 結論

吹奏楽コンクール小編成の部全国大会を開催するには、各都道府県大会・地方支部大会において小編成の部を設置し代表を選出できる制度を整えることが必要である。また、少人数でも演奏可能な課題曲や自由曲、小編成バンドに対応できる指導者を増やしていくことも重要である。

著名な指揮者や演奏家から講評が受けられる貴重な機会である吹奏楽コンクールに、少しでも多くの団体が参加しやすくなることを願う。

### 4. 参考文献ならびに参考Webページ

一般社団法人全日本吹奏楽連盟.連盟の概要.規約  
<http://www.ajba.or.jp/company.html#kitei>,(2022.1.12)  
その他各支部・各都道府県吹奏楽連盟webページ